



sayachan

2月号

さやまだい

公民館・地区センターだより

平成31年度
2019年2月



ma-kun

書道って楽しい!

冬休み書道教室



筆をこう持ってごらん

12月26日(火)、27日(水)、1月7日(月)の3日間、元気プラザで狭山台地域づくりをすすめる会青少年グループ主催の小学生書道教室が開催されました。この書道教室は8年間、毎年夏と冬に開かれ、子供たちが日本の文化に親しむ良い機会になっています▼この冬は1年生から6年生までの10名が参加しました。子供たちは寒さに負けずに元気に通い、熱心に取り組みました。書道サークル「春墨会」のみなさんが、初めて筆を持つという人から大きな紙に挑戦する人までを丁寧に指導しました。初めての1年生も筆のあつかいにすぐ馴れ、元気よく筆を運び、良い作品を書きあげていました。高学年になると意欲も出て大きい紙にも書いてみたいと、50cm×50cm大の紙に挑戦し、思いっきり大きな字を書き、その作品に消しゴムで作った手作りの落款(印鑑)まで押して大満足していました▼参加者の声:「中学校になっても参加して助手をやってもいいよ」何回も参加してきた6年生(男)、「楽しい、毎回参加したい」5年生(女)、「楽しくできた」1年生(女)▼スタッフ感想:「子供と触れ合えるのは楽しい。自分にも勉強になります」「子供に教えることで、いつも書道の基本を確認できてありがたい」(牧野記者)



難しい「亥」に挑戦



作品は元気プラザに展示しています。



環境講座

森の手入れ体験学習



NPO さやま環境市民ネットワーク・緑のトラスト狭山・環境課・社会教育課・堀兼公民館・狭山台公民館共催



堀兼・上赤坂公園の隣接地に「緑のトラスト狭山保全9号地」があります。武蔵野の面影を残す雑木林です。自然の歴史的な環境を県民の共有財産として保全しようと運動を展開しています。県内には14の保全トラストがあります▼12月23日(日)9時半、雑木林に近隣小学校の子供たちとその保護者が集まりました。「森の手入れ体験学習・みんなで学ぼう!木を切ると環境にいいことあるってほんと?」がテーマです▼公園管理棟ロビーで作業のレクチャーを受けた後、ヘルメットと作業手袋着用で現場へ向かいました▼森や雑木林は手入れを怠るといろいろな木や草が生えすぎて、暗く風通しも悪く、いろいろな動植物が住みにくくなります。そのため、木を伐り、草を刈って環境を良くします▼チェーンソーが唸り声を上げてヒノキに食い込みました。倒す方向が反れないように張られたロープは、子供たち、おとなたちによってしっかり握られています▼倒された木の小枝を子供たちがノコギリで切り落とし、木は玉切りにします。残った根っここの年輪を数え、「この木は50才以上だ!」。やがて根っこの周りに新芽が出てきます。繁茂した下草を刈り払い機が刈り取っています▼シイタケ畑で顔ほど大きなシイタケをかざして歓声。他の子供たちも競ってヘルメットの器へ放り込みます▼作業が終わりドリンクとお菓みに舌づつみ。そして、子供たちへ森の動物の木エクラフトがプレゼントされ、子どもたちにも保護者もニッコリでした▼感想:「木が倒れるのがすごかった」(小2)、「みんなでロープを引っ張るのが楽しかった」(小4)、「ノコギリは怖かったよ」(小2)、「チェーンソーはすごい音だった」(小1)、「いろいろなプレゼントがあって楽しかった」(小4)等▼「緑のトラスト狭山」の方々は「私たちの仕事を知ってもらえて良い機会だった」「大きくなったらこの森へ来てほしい」「今日の体験をお友達へも伝えてね」(葛西記者)



チェーンソーや刈り払い機の説明を受ける



倒木の枝をノコギリで切り落とす



シイタケはジャンケンで分け合う



作業を終えてみんなでパチリ!

※写真提供:「緑のトラスト狭山」